



クスノキ



自律

人権

創造

豊中市立第十四中学校
学校だより
令和6年(2024年)
9月11日
発行責任:校長 石井 武

★9月16日は、本校46回目の創立記念日です！

一本の木も、一輪の花もない中でのスタートでした・・・

昭和53年(1978年)4月10日、1年144名・2年2名・3年3名・教職員16名で開校式及び第1回入学式が挙行され、豊中市立第十四中学校の歴史がスタートしました。



現在の十四中校区は、開校前は第二中学校区でしたが、二中の大規模校解消のために分離独立して十四中が開校しました。しかし、開校時は一本の木もなく、ブルドーザーが轟音をたてて整地作業を行っており、花や緑のない中で唯一の緑の植物は、七中から寄贈された「忘れな草」のプランターのみだったようです。

「忘れな草」で迎えた開校式

(5周年記念誌より)

緑のない学校は、なんと冷たい表情をしているのだろう。完成した校舎に立ったとき、先生たちはそう思った。七中からいただいた「忘れな草」のプランターが体育館の前に置かれ、わずかに開校式に彩りを添えたのだった。

6月12日、市公園課から500本の樹が届いた。6限目、一人3本ずつの「さつき」「ひらど」の苗をフェンスの外側に植えた。

その後、生徒、教職員、PTAが一丸となって、ゼロからの学校づくりを進め、校章の制定をはじめクラブの発足、第1回修学旅行や第1回体育大会、第1回卒業式も見事に実施しました。そして、9月16日に開校記念式典を開催したことから、同日を創立記念日に制定しました。

今でこそ十四中は、シンボルツリーのクスノキや花と緑にあふれた素晴らしい環境がありますが、それらはすべて45年の歴史の中で少しずつ大切に育まれてきたこと、そしてクスノキの生長とともにみんなの力で素敵な学校づくりをめざし、花と緑に囲まれた学校環境を創造してきたことを忘れないでほしいと思います。



▲創立当時七中よりいただいた「忘れな草」。



▲創立三年でこんなに立派になりました。

「3期生（開校当時1年）のメッセージ」

（10周年記念誌より）

（前略）今の十四中生には想像できないことでしょうが、私達が入学した頃は、制服も校章も校歌もなく、おまけに校庭にはブルドーザーが走り回っていて、足を踏み入れることもできませんでした。木も花も植えられていないただ広い校庭は、十四中そのものを象徴しているようでした。

「白紙」・・・そうです。この言葉以外に、当時の十四中にふさわしい言葉はありません。

生まれたての赤ちゃんのように、右も左も全くわからなかった私達は、先生も生徒も一つになって、手づくりで学校を作っていったのです。（後略）

開校当時の十四中



1978年4月 開校時の全職員と2・3年生



1979年3月、第1回卒業式前、4人の卒業生（1期生）を1・2年生と教職員の輪で包み込んで撮影した記念写真。開校時3年生は3人でしたが、年度途中で1人転入生がありました。

★十四中生、がんばっています！PART5～クラブ表彰～

陸上部	第62回豊中市民陸上競技大会 女子中学2年 砲丸投 8m81	第1位
	女子中学2年 砲丸投 7m45	第2位
	男子中学2・3年 走高跳 1m55	第2位
	男子中学2・3年 800m 2分27秒52	第3位
	女子中学2・3年 100mH 18秒99	第3位

